

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200145		
法人名	社会福祉法人スマイリング・パーク		
事業所名	グループホームスマイリング・パーク	ユニット名	スマイル①
所在地	宮崎県都城市丸谷町359番地1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい理念『自分らしく 楽しく ほっとする家 みんなで繋ぐ絆(感謝の心を忘れず、利用者様・ご家族・地域との輪を大切にし真心もってそっと寄り添って行きます)』を理念に、感謝の心を忘れず、日々生活しております。本来であれば、たくさんのご家族や地域住民の方々のご協力を多く頂きながら、地域の行事等への参加や、交流等を継続したいところではありましたが、新型コロナウイルスの影響により、自粛等も続きました。しかしながら、このような状況でも出来る事(テレビ電話・SNS)を新たに実施・継続し努めています。また、法人全体で導入しているICT機器の使用を行いながら、利用者個々に合わせたデータ分析や職員の業務の簡素化に努め、利用者様お一人お一人の意向に合わせながら支援に努めております。職員教育の部分では、プリセプター制度の導入や、人事考課制度を設けるな

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に特別養護老人ホームとデイサービスセンターがあり災害時には、協力できるような体制づくりに取り組んでいる。2ユニットの利用者の状況等を職員が共有できるようなシステムを改善し、サービスの向上に生かすよう努めている。また、寝たまま入浴が出来る「シャワートローリー」や浴槽に機械に入れる「キノバス」、寝たきりの方が車椅子に移乗する「床走行リフト」や車椅子からスタンディングリフトでトイレ介助を行う「介助リフト」を導入するなど、「抱えない介護」を実践できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者の変更や、新たな職員や利用者様もおられ、状況の変化に沿って全職員で新たな理念を考え作成する。会議の中や申し送り簿、日々のケアの中で目的を共有し、実践できるように取り組んでいる。	理念の一部「自分らしく楽しく」を利用者も職員も感じられるよう実践に取り組んでいる。理念は会議や申送り時に確認し、共有するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の公民館に所属しており、毎年、行事の参加や交流等を実施していたが、新型コロナウイルスの影響により、イベント中止や自粛が続いた。しかし回覧板を受け取ったり、地域の方よりお花やお野菜を頂くなどの交流は継続している。	近所の小・中学校の文化祭を見学したり、毎年、地域の方の指導を受けて、利用者と一緒に梅干、味噌作りを行うなど、地域住民との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方へ運営推進委員等もご協力いただき、ご助言等頂いている。新型コロナウイルスの影響により、来園の機会は減っているが、SNSを中心に日々の出来事を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動状況や現状を写真を用いながら報告している。新型コロナウイルス感染拡大期間においては、文章及びアンケートでの実施とさせて頂き、実際に運営推進委員(家族代表)からのご意見としてあがった内容も取り組み行っている。会議内容についても職員間で共有しており、サービス向上に取り組んでいる。	地域の代表者として専門学校の事務長や児童自立支援施設の園長、市立小・中学校の校長が参加している。文書による会議では、運営推進員にアンケートを行い、意見等を運営やサービスに生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、事業運営に関する相談も直接訪問するなどし、ご助言頂いている。	市の担当者へ運営会議の議事録やスマイルUP通信を直接持参している。運営に関する事など電話で済むことでも直接訪問し協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議にて身体拘束を行わない環境作りや利用者の行動抑制にならないような意識づけ等議題に沿って意見交換を行い、理解、確認し日々のケアに取り組んでいる。また日中は玄関の鍵は開放しており、出入りも自由となっている。	毎月研修会を行っている。行動を抑制する言葉かけを行った場合は、アセスメントを行い、声掛けについて振り返るよう取り組んでいる。その他に離設時の搜索模擬訓練を実施し、ケアの実践に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間研修計画にも取り上げており、勉強会を実施している。また毎月の職員会議では身体拘束・虐待防止への議題に沿って研修を実施し虐待防止に努めるとともに、申し送り等で情報共有しケアを行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や勉強会を通して、日常生活における支援事業や成年後見制度を学習している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、出来る限りお時間設けて頂き、入所前日までにご家族様やご利用者様の意向等も伺いながらゆっくりと時間をかけ説明行えるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様からの意見や要望は個別の記録へ出来る限り細かく残し、反映やケアにつなげられるよう職員全体が共有している。また運営推進会議へも2名のご家族に参加して頂いており、ご家族様の意見等もあり、通信を配信する等反映できるよう努めている。	家族からの意見や要望及び回答は、ケースごとに記録し職員が共有している。感染症対策として家族の面会が出来ない場合は、ホームでの様子をテレビ電話、動画配信、写真の郵送等で報告し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で出た意見や提案に加え、その都度気になる点は相談できるような環境作りを行っている。また、新型コロナウイルスで自粛となった夏祭りや敬老会はじめ、職員一人一人が意見を出し合っただけでなく意見を運営に反映できるよう努めている。	管理者は、会議以外にも直接意見を聞く機会を設け、職員を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持ち、その力が発揮できるよう、個々の置かれた状況を把握し、働く事が出来るよう環境作りに努めている。また、法人全体で人事考課制度を整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット職員の協力のもと、プリセプターが中心となり日々確認しながら力をつけられるようサポートを行っている。評価、チェック表等を用いて個々の成長に合わせながら柔軟に育成期間等を設け指導している。法人外での研修等も積極的に参加しており、人事考課制度等で評価・反映している。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や、都城市で開催している事例検討会に参加し、情報共有を行っている。			
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心して頂けるように発言しやすい雰囲気作りに努め、ご本人様のご意見や要望を傾聴し、そこで得られた情報をケース記録や口頭等で申し送り、その方らしく過ごしていただけるように職員間で共有・ケアへの反映に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、ご家族様のご意見等を伺いながら、面会時等に動画や写真を使用し説明する等見える環境、関係作りに努めるとともに、職員間で情報の共有をを行いながら関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者を中心に、申し込み時にご家族様や、ご本人様の生活状況等を伺い、必要であれば他事業所の取次ぎ等も実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の調理や掃除など、利用者様にご協力頂いており、利用者様に相談させて頂きながら一緒に行っている。また、その方が出来る事の把握に努め、一緒に取り組めるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響にて面会が制限される中での取り組みとして、SNSや動画配信及びテレビ電話、通信等により家族とのつながりを継続している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住まわれているご家族様・親戚・友人より頂き物やお手紙を頂いた際や、ご利用者様が希望された際には電話やお返事を書くなどし支援を行っている。	近所の馴染みのお店や法人施設内の売店での買い物支援を行っている。友人など面会者との写真を家族に見せるなど関係継続の支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の言動や表情等をケース記録へ残し共有し、それぞれの関係性を把握したうえで座席の配置や寄り添い方を工夫しストレスや孤立しない様に支え合い一緒に作業を行う事で支え合える支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やさまざまな理由で退所された方も、これまでの関係性を大切に、電話相談や、直接足を運んでいただき、お話をするなど、関係性が途切れぬよう相談等努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人様の想いや意向を確認し、職員が把握し、担当者会議や面会時等にもご家族に意見を聞くなどしている。意向の確認が困難な場合や、表情の変化等に注目したり、ご家族様へも意見いただくなどし、本人様にとって良い方法で支援できるよう努めている。	利用者の細やかな表情などで把握に努め、本人の得意なことを生かせるよう環境づくりに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や性格、趣味嗜好の情報収集を行い、また、日々の関わりの中で得た情報もケース記録にて共有し支援につなげている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のその日の様子、言動、行動や、入眠、食事、排便などのデータも踏まえ、変化に注視し、申し送り等で情報の共有を行いながら状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の細やかなケース記録から担当者を中心にモニタリングを行い、ユニット会議等を行いながら現状の把握に努め、課題や、検討が必要な際は素早く意見交換を行い、その時必要な支援が出来るよう努めている。また、ご家族等にもご意見頂きプランに反映している。	定期的見直しは6か月、モニタリングは、毎月行っている。利用者について、職員の意見と変化したことをユニット会議で細かく話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時その時の言動や行動を、細かく記録や写真(動画)に残し、分析につなげている。客観的なデータや、ケアの細やかな記録をもとに情報を共有しケアの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望や状態により主治医・訪問看護、ご家族へ相談し歯科往診や協力医療機関への受診等連携を図っている。また、お盆やお正月、墓参り、買い物など希望や外出の意向があった際には柔軟に対応している。			

宮崎県都城市 グループホーム「スマイリング・パーク」(スマイル①)

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時に備えての警察署への相談及び助言を頂き、防災面では地域の消防団のご協力を頂き防災訓練実施している。また、近所の商店での買い物などをさせて頂くなどし交流を深めさせて頂くなどしながら地域の方へも利用者様の見守りなど支援頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診や、関係機関の受診、体調変化があった際には適切な医療を受けられるよう情報提供・共有を行っている。必要時、主治医からの説明等も実施して頂いている。	かかりつけ医、他科受診は、家族が支援し、医師の説明等に不安がある方には、職員が同行し支援を行っている。緊急時には、訪問看護ステーションに連絡し看護師から医師の指示により対応するなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に訪問看護ステーションがあり、定期的な訪問時に日々の支援の中で気になる事を都度、報告相談を行っている。それ以外でも24時間情報を送るバイタルリンクやパソコン、電話等活用し小さな変化も共有を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族の承諾を得て管理者により病院関係者等との情報交換を行っている。また定期的にご家族様へも連絡するなどし医療機関との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所された日や、半年に一回のケアプラン見直し時に見取りに関する意向書の説明を行い書面で確認を行っている。また、体調の変化時には、医師や看護師、ご家族も交えて状況説明を行い、その都度意向の確認を実施している。年間研修計画にて看取りについても学習しており、体制づくりや環境整備、誰もが記載できるお看取りノートを活用しながら穏やかに終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	重度化に伴い「看取り介護(ケア)について希望(要望)確認書」にその都度意向の確認を行っている。年間計画で看取りの勉強会を実施し、ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の研修計画にて訪問看護ステーションの看護師により応急処置等勉強会を実施している。また、初期対応についてはマニュアルをもとに実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に基づき年に2回の総合防災訓練を実施。夜間想定訓練や、地域の消防団をお呼びしての訓練も実施している。また、非常時の食事の訓練も行っている。	避難訓練、非常時の電話訓練、地震を想定した訓練を実施している。災害時には、近くの法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターとの協力できるよう体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個々の性格や希望を考慮し、プライバシーに配慮した排泄や入浴ケアを実施している。特に声掛けに配慮し、表情、声のトーン等に注意し支援するよう申し送り簿やユニット会議等でも情報共有を行いながら対応している。		入室やトイレ介助の際など、プライバシーを損ねないよう対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の想いや希望をくみとり、自己決定ができる機会を作り支援している。言葉では十分に意思表示できない方には、ご家族様から情報を得たり、ご本人様の表情の変化を見逃さないように努め、希望へ添えるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、運動など本人様のペースに合わせられるよう意向を確認し、本人様のその日その日の希望に沿った過ごし方ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々のヘアメイクでの支援や訪問理容によるヘアカラーなど、おしゃれが継続できるよう支援している。また行事の際には希望を聞きながら対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にご飯やみそ汁作りを行っており、味見を行っていただいたり、実際に味付けを行って頂いたり職員とともにいき、ご飯やお味噌汁も食べただけついで頂いている。また、調味料セットを準備し嗜好に合わせて味付けできるよう工夫している。一緒に作ったものは職員も同じテーブルで食事をしながら楽しく食事ができるよう努めている。		食材は外注しているが、調理の時に利用者の意見でユニットごとにアレンジを行い、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好・状況に合わせて食器の選定や配置、食形態や水分の形態等を分析し、無理のない程度での提供に努めている。また一日に必要な水分摂取量を出しながら水分提供にも努め食事量が低下傾向のあらわれる方へは栄養補助食品やご家族様へ本人様のお好きなものの持ち込み等のご協力をいただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しや支援行っている。その際に不具合や出血の有無、残歯の確認を行い歯科往診などを利用し口腔内の清潔の細やかな方法等、動画撮影等させていただきながら個々に合わせた物品や支援方法の変更等図っている。			

宮崎県都城市 グループホーム「スマイリング・パーク」(スマイル①)

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン(量・スピード)等に合わせ、誘導時間やおむつ選定など、把握に努めデータ分析を行ったうえで、お一人お一人にあった排泄支援が出来るようパットやパンツの選定実施している。また自尊心に配慮し重ね使いをせず下着のような感覚での排泄支援が行えるよう努めている。おむつメーカーのアドバイザーへも助言いただいている。	排泄のデーターを分析し、トイレ誘導を行っている。個々の尿量に応じて適切なおむつに変更するなど、排せつの支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や、排便のパターンの分析を行いながら、ヨーグルトや乳酸菌飲料、運動、腹部マッサージなど、訪問看護の看護師に助言いただきながら個々に取り組み共有している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望時に実施できるように努めており、入浴を好まれない方や、羞恥心が強い方などへは、声掛けや支援方法の統一を行うとともに、女性職員での対応にするなど考慮し調整を行っている。	全員が浴槽内で入浴できるように、寝たまま入浴できるシャワートローリーや浴槽に機械で入るキノバスを設置している。浴室と脱衣室に暖房機を設置し、入浴支援に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャン等を活用し、睡眠のデータ分析に努め、眠れない方に関しては、お話を聞いたり、一緒に飲み物を飲むなどし空調・排泄など、不眠につながる出来事がなかったかも含め分析を行っている。また、眠りやすい寝具に関しても使い慣れたものやクッションなど持ち込んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットなどダブルチェック行い、ファイルにて管理する。内服変更時には訪問看護や申し送りを活用するなどし、周知徹底行うと共に、食間のお薬がある方に関しては、プレートやアラームを使用するなどし服薬の徹底を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花植え、調理、歌や塗り絵など、お一人お一人が得意とするものを継続し実施していただき、お一人で難しい方に関しては隣で支援することで出来る事もある為、個々に合わせて実施している。また、日々の外出等も行いながら気分転換に努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大の期間中は、外出が困難となったが、施設周辺の散歩などの外出は継続し実施している。また、買い物支援等はマスク着用し3蜜を避けて短時間での実施に努めている。	近所の庭にコスモスを見に行ったり、同法人の特別養護老人ホームの中に売店があり、野菜など買い物に行くなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。また、年間計画を作成し、外出支援の実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	スマイル①	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご協力とご理解を頂き、財布に少額のお金を所持していただき買い物支援等に行かれた際にお好きなものや必要なものをご自分で購入できるよう支援している。詳細は記録に記載し、ご家族面会時等にお知らせしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響もあり、新たに導入したテレビ電話を活用し、お顔を見て話しができる環境を整えたり、遠方からのお手紙や贈り物があつた際にはお電話をするなどしやり取りが出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を中庭に植えたり、共有スペースにて花を飾るなどしている。地域の方やご家族様にお花を頂いたり、植えていただくなどし居心地よく過ごせるよう環境整備を行っている。また共有スペースにはテレビの設置をしておらず、個々に合わせた支援を心がけている。	玄関はユニットごとで壁や床は、用途に応じた木材が使用されている。トイレをリビングの他、居室ごとに設置し、スタンディングリフトや車椅子が使用できるようスペースを確保するなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き一人になれる場所を設けている。また気が合う方とお話したり、自由にくつろげるよう工夫を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用されていた家具や使い慣れたものなどを持ち込んでいただき、写真や思い出の品々を居室に置くことで心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	寝具や仏壇、ぬいぐるみなど慣れ親しんだを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人が安全に自立した生活が出来るようご家族様の協力も得ながらご本人様の支えになる家具の設置や配置を検討し、利用者様の心身の負担とならないよう物の高さ、保護、物品の配置等、行動分析したうえで環境作りを実施する。			